令和４年度 事業報告

令和２年の春以降、新型コロナウイルスの感染による影響が各方面に波及し、多くの人々が厳しい状況に置かれた。その一方で、リモートワークやオンラインでの取り組みが進み、アフターコロナの社会では、障がい者の社会参加の新たな可能性が拡がるのではという期待も高まっている。

新しい生活様式となった今般、「ｅスポーツ」が盛り上がりを見せており、まだまだゲームという側面が強いという印象を受けるが、年齢や性別・国籍、障がい等の壁を超えて、誰もが参加することができる共生社会の実現に大きく寄与する存在として注目されている。

道内においてもボッチャなどの障がい者スポーツとデジタル技術を融合させた体験会が行われ、訪れた人は、ＩＴを駆使して計測・表示する機器を利用した最先端のパラスポーツを体感した。

テクノロジーの進化によって、障がい者スポーツの未来は大きく変貌しようとしており、今後は時流の変化を見据えながら、領域を問わない柔軟な発想で事業を展開していく必要がある。

Ⅰ　大会開催等の事業（公益目的事業１）

～障がい者スポーツの競技力向上と振興を図るための大会開催等の事業～

１　大会開催事業

（1）第 60 回北海道障がい者スポーツ大会

身体障がい者及び知的障がい者が、スポーツを通じて体力の維持増進を図り、障がい者の自立と社会参加を促進させるとともに、障がいに対する道民の理解を深め、本道における障がい者のスポーツをより発展させることを目的として開催した。

コロナ禍の影響により３年振りの開催となった第６０回大会は、４年前の開催地でもあるオホーツク地区で行われた。当初は６競技を実施する計画であったが、参加募集の結果、団体の４競技が競技成立に必要なチーム数のエントリーがなかったことから、残る２競技のみの開催となった。

網走市で実施した陸上競技に出場した選手数は４年前の大会の約半数であり、北見市で行われた車いすバスケットボールに出場した３チームも、十分な数の選手が揃わず、チーム編成に苦慮しており、コロナによる２年のブランクは、選手たちのスポーツ活動に暗い影を落としている。

実施した２競技の会場では、北海道理学療法士会の協力によるケアブースを初めて設けたところ、選手には大変好評で、今後も継続する方針である。また、北見市の車いすバスケットボール会場において、パラスポーツの体験会も同時に行われ、訪れた市民がボッチャなどの競技に興じていた。

■開催年月日　令和４年６月１９日（日）・７月３日（日）・７月１０日（日）・１０月９日（日）

■開催市町村　網走市・北見市・斜里町・清里町

■参 加 人 数　選手 183 人　役員等 274 人　合計 457 人

実施競技	競技会場	開催月日	参加選手数
陸上競技	網走市営陸上競技場（網走市）	6/19	157 人
車いすバスケットボール	北海道立北見体育センター（北見市）	10/9	26 人［3 ﾁｰﾑ］

バスケットボール	清里トレーニングセンター（清里町）	7/10	※競技不成立
サッカー	斜里町陸上競技場（斜里町）	6/19	※競技不成立
ソフトボール	網走スポーツトレーニングフィールド（網走市）	7/3	※競技不成立
フットベースボール	網走スポーツトレーニングフィールド（網走市）	7/3	※競技不成立
		計	183 人［3 ﾁｰﾑ］

（2）第 42 回北海道障がい者冬季スポーツ大会

障がい者が冬季スポーツを通じて、健康な心身の維持増進を図り、希望と勇気を持って社会に参加するとともに、道民の共感を呼び起こさせ、共生社会の理念の浸透を促進させることを目的として本大会を計画したが、開催に困難な事態が生じたことから、大会を中止した。

本年度の夏の全道大会も実施した網走市において、コロナ禍の影響により４年振りの開催となる大会の諸準備を進めていた。今大会は、網走市で毎年開催されている「網走市民スキー大会」と合同で開催する計画であり、両大会の会場には大勢の市民が来場する予定であった。

ところが、網走市内の降雪量が少ない今シーズンは、大回転競技の会場となる網走レークビュースキー場のオープンが例年より遅れ、少雪のため距離競技の会場を変更せざるを得ない状況にあり、選手の参加申込みもコロナ自粛の影響を受け、例年の２割に満たないエントリー数であった。

このような事態を踏まえ、緊急の実行委員会が開催され、大会実行委員長から大会の中止に関する意見書が当協会に提出された。当協会としては、実行委員会の意向を尊重し、道とも協議の上、今大会の開催については、熟慮の末、中止という苦渋の決断をするに至った。

■開催年月日　令和５年２月２６日（日）　**※開催中止**

■開　催　地　網走市

■エントリー数　選手 19 人

実施競技	競技会場	ｴﾝﾄﾘｰ数
大回転競技 （A ﾗﾝｸ 500m　B ﾗﾝｸ 400m　C ﾗﾝｸ 300m）	網走レークビュースキー場	9 人
距離競技 （A ﾗﾝｸ 3000m　B ﾗﾝｸ 1000m　C ﾗﾝｸ 400m　D ﾗﾝｸ 150m）	北海道立オホーツク公園	10 人
	計	19 人

（3）はまなす車いすマラソン 2022

障がい者が車いすマラソンを通じて、お互いの理解と親睦を深めるとともに、希望と勇気を持って社会に参加する意欲を喚起させ、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者スポーツの振興及び共生社会の理念の浸透を図ることを目的として開催した。

東京五輪・パラリンピックが１年延期された影響により、北海道マラソンが２年休止となったことから、３年振りの合同開催となった。オリンピックコースを取り入れるルート変更を行った北海道マラソンに準じ、車いすハーフマラソンも、世界のトップアスリートが競ったコースで開催した。

鈴木知事がスターターを務めたハーフマラソンには、東京パラのマラソンに出場した選手もエントリーしており、男子はトップのランナーが２位以下を大きく引き離し優勝し、女子は最後まで競り合った上位２名のランナーが、これまでの日本記録を更新する快走でフィニッシュした。

秋元市長の号砲でスタートしたショートレースは札幌駅前通りの新コースで行われ、１kmと２kmのコースに出場した選手は、札幌都心部の周回コースを車いすで力走した。午後から札幌市役所ロビーにおいて行われたハーフマラソンの表彰式では、各クラスの上位者に入賞盾が贈られた。

■開催年月日　令和４年８月２７日（土）選手受付・説明会／２８日（日）競技・表彰式
■開　催　地　札幌市（日本陸連公認「はまなす車いすマラソンコース」ほか）
■参 加 人 数　選手 98 人　役員等 4,400 人　合計 4,498 人

実施競技	競技コース	参加選手数
ハーフマラソン（公認コース） 21.0975 km	大通西４丁目スタート 新川西 1-1（新川通）フィニッシュ	37 人
ショートレース（オープン競技） 1 km・2 km	大通西４丁目スタート～南大通折り返し～ 北３条折り返し～フィニッシュ	61 人
	計	98 人

（4）競技別スポーツ大会（主催・共催）

障がい者が競技等を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、健康の維持増進、機能回復を図り、参加者との交流を深めることにより、障がいに対する道民の理解を深め、社会参加の意欲の向上を図ることを目的として各大会を開催した。

本年度は、アーチェリー大会をはじめ５大会を開催した。５大会ともに、コロナ禍の影響により３年振りの開催となった。共催事業のボッチャとフライングディスクの両大会は、コロナ感染のリスクを考慮し中止となり、ゲートボールはエントリーチーム数の減少により開催を中止した。

開催した５競技についてもコロナ前とでは参加選手数が大幅に減っており、日頃の練習環境が大きなダメージを受けている現状にある。全国障害者スポーツ大会の予選会である大会も多いことから、一定の競技レベルを維持する必要があり、選手の参加意欲の回復が待たれるところである。

大会名・開催日・会場	参加選手数
第 37 回北海道身体障がい者アーチェリー競技大会 令和４年７月 31 日（日）　月寒アーチェリー場（札幌市）	8 人
第 23 回北海道ボッチャ選手権大会（共催） 令和４年８月 28 日（日）　道立野幌総合運動公園（江別市）　※開催中止	―
タンデムサイクリング大会 令和４年８月 28 日（日）　道立野幌総合運動公園（江別市）	6 人
第 33 回北海道障がい者水泳大会 令和４年９月 11 日（日）　平岸プール（札幌市）	52 人
第 28 回北海道障害者フライングディスク大会（共催） 令和４年９月 25 日（日）　つどーむ（札幌市）　※開催中止	―
第 36 回北海道身体障がい者ゲートボール大会 令和４年 10 月８日（土）　宮の沢屋内競技場（札幌市）　※開催中止	―
第 34 回北海道障がい者ボウリング大会 令和４年 10 月 16 日（日）　ディノスボウル札幌手稲（札幌市）	24 人
第 34 回北海道障がい者卓球競技大会 令和４年 11 月 20 日（日）　札幌市身体障害者福祉センター	75 人

2　大会派遣事業

（1）第 22 回全国障害者スポーツ大会北海道選手団派遣

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的として派遣した。

大型台風の接近やコロナ禍の影響により３大会連続で中止となった全国障害者スポーツ大会が、４年振りに栃木県で開催され、北海道選手団９８人を５泊６日の日程で派遣し、選手５９人が７競技に出場した。コロナや諸事情により１１人の選手が大会前に参加を辞退している。

栃木県に入県する前に選手団全員のＰＣＲ検査が課せられ、入県後も抗原定性検査を行っていたが、栃木滞在中に選手１名がコロナに感染し、療養体制の確保と感染防止対策の対応に追われた。対策が功を奏し、選手団内の感染拡大には至らず、陽性者も７日間の療養期間を経て帰道している。

６月には９年振りに北海道が実施主体となり、バスケットボール競技の北海道・東北ブロック予選会を北広島市で開催した。コロナの影響はこの予選会にも及び、東北からの参加は秋田県１チームのみとなり、男女ともに北海道、札幌市との３チームで全国大会の代表枠を争った。

■強化合宿　道立野幌総合運動公園（江別市）

第 1 班　令和 4 年 5 月 10 日(火)～12 日(木)　卓球・フライングディスク・ボッチャ

第 2 班　令和 4 年 5 月 17 日(火)～19 日(木)　陸上競技

第 3 班　令和 4 年 5 月 24 日(火)～26 日(木)　水泳・アーチェリー・ボウリング

■北海道・東北ブロック予選会（バスケットボール）　北広島市総合体育館

バスケットボール（北海道 6/4～5）男子 3 位、女子 3 位

サッカー（青森県 6/11～12）初戦敗退

■選手団派遣

令和 4 年 10 月 27 日(木)～11 月 1 日(火)　栃木県　選手 59 人・スタッフ 39 人

■大会開催

令和 4 年 10 月 29 日(土)～31 日(月)

■出場競技

競技名	競技会場	出場選手数	メダル獲得数
陸上競技	カンセキスタジアムとちぎ（宇都宮市）	22 人	23 個
水泳	日環アリーナ栃木屋内水泳場（宇都宮市）	10 人	12 個
アーチェリー	那須烏山市緑地運動公園多目的競技場（那須烏山市）	1 人	1 個
卓球	ＴＫＣいちごアリーナ（鹿沼市）	12 人	8 個
フライングディスク	栃木市総合運動公園陸上競技場（栃木市）	7 人	1 個
ボッチャ	三和住宅にしなすのスポーツプラザ体育館（那須塩原市）	1 人	0 個
ボウリング	足利スターレーン（足利市）	6 人	2 個
	計	59 人	47 個

■派遣選手選考委員会（特別全国障害者スポーツ大会「鹿児島県：Ｒ5.10.28～30」）

令和 5 年 2 月 7 日(火)　かでる 2・7 会議室　出席委員 9 名

Ⅱ　指導者育成等の事業（公益目的事業２）

～障がい者スポーツを普及啓発するための指導者育成等の事業～

１　指導者育成事業

（1）障がい者スポーツ競技指導者研修会

障がい者スポーツの振興と競技力向上にあたる指導者の資質と指導力の向上を図るため、障がい者スポーツ指導者を養成することにより、障がい者の自立と社会参加を促進するとともに、障がい者スポーツ環境の一層の充実を図ることを目的として実施した。

オホーツク陸上競技協会の会員を対象とした陸上競技の研修会は、網走市営陸上競技場で２回開催した。１回目の研修会は、オホーツク陸協記録会第２戦の終了後に、２回目の研修会は北海道障がい者スポーツ大会の前日に実施し、競技規則や障害区分などについて現地で研修を行った。

車いすバスケットボールの研修会は、２日間にわたり、北海道バスケットボール連盟の公認審判員を対象に北見市内の会場で実施した。北海道車いすバスケットボール連盟の選手の協力も得て、試合形式の実技講習を行い、車いすバスケットボールの審判員としての基礎やスキルを学んだ。

フットベースボールの研修会は、網走野球連盟の審判員を対象に実施する予定であったが、７月に開催する北海道障がい者スポーツ大会の同競技が、競技不成立となったことから、研修会を中止している。同競技は、１０月の全国大会から競技名が「フットソフトボール」に改称された。

■研修会実施状況

研修会名	研修実施日	研修会場	研修者数
陸上競技審判研修会	令和４年５月 14 日（土） 令和４年６月 18 日（土）	網走市営陸上競技場	20 名 20 名
車いすバスケットボール競技審判研修会	令和４年９月 10 日（土）～11 日（日）	北海道立北見体育センター 北見市小泉地区トレセン	９名
フットベースボール競技審判研修会	※開催中止		

（2）初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

障がい者の適性に応じたスポーツやレクリエーションの実施方法及びリハビリテーションとの関連性等について講習を行い、主として身近な障がい者に対してスポーツの喜びや楽しさを理解させるための指導者を育成することを目的として実施した。

コロナ禍の影響により、２年間中止となっていた本講習会を１１月に３日間の日程で、札幌市内の会場において３年振りに開催し、１７名の受講者が２１時間のカリキュラムを修了した。受講者は日本パラスポーツ協会公認の初級障がい者スポーツ指導員としての資格を取得できる。

感染防止対策として、受講定員を３０名から２０名に減員し募集を行ったところ、定員をはるかに超える受講申込みがあり、抽選の上、２０名の受講者を決定したが、コロナに関連する諸事情により、講習会の直前に３名の受講キャンセルがあった。

初級スポーツ指導員は、障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員であり、スポーツ現場におけるサポートを行う役割を担う。閉講式では、地域の最前線で障がい者スポーツの普及啓発活動に取り組む貴重なマンパワーとして期待される受講者全員に修了証書を授与した。

■開催年月日　令和４年１１月１１日（金）～１３日（日）
■開　催　地　札幌市（北海道青少年会館コンパス）
■受 講 者 数　17 名
■講 習 内 容　全 21 時間（講義・実技）

2　普及啓発事業

（1）障がい者スポーツ教室

スポーツに親しむ機会の少ない障がい者が、障がいの特性に応じたスポーツを生活の中に取り入れるための契機となるよう、各種スポーツのルールや基本的な技術を修得するとともに、スポーツに親しみ、多くの仲間と交流しながら、社会参加意欲の向上を図ることを目的として実施した。

前年度はコロナ禍の中で５回の教室を実施し、延べ８４名が参加したが、今年度は実施状況が徐々に回復し、１３の教室に延べ２７３名が参加した。白老町発祥の軽スポーツ「ゲーリング」や「ふまねっと」などのニュースポーツにチャレンジした教室もあり、参加意欲は総じて高かった。

このスポーツ教室は、当協会が教室開催に係る経費を負担の上、地域で活動する障がい者団体や支援学校等が実施主体となり、地域のニーズに応じた競技種目に取り組む事業であり、実施団体を募集するにあたっては、年度当初に三百を超える関係団体に案内し、教室事業の周知を図った。

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大予防のためのガイドラインを策定し、参加者が遵守すべき事項を明確にして協力を求めたことにより、本教室から感染が生じた事例はなかった。

■スポーツ教室開催状況

対象競技	教室実施日	教室会場	参加者数
バドミントン	令和 4 年 6 月 18 日	名寄スポーツセンター	61 名
水泳（2 回）	令和 4 年 6 月 26 日 令和 4 年 7 月 10 日	網走市民健康プール	7 名 7 名
ｻｳﾝﾄﾞﾃｰﾌﾞﾙﾃﾆｽ	令和 4 年 8 月 21 日	千歳市総合福祉センター	11 名
健康ｽﾎﾟｰﾂｽﾄﾚｯﾁ	令和 4 年 9 月 19 日	新ひだか町ピュアプラザ	12 名
ふまねっと	令和 4 年 9 月 12 日 令和 4 年 9 月 28 日 令和 4 年 10 月 12 日	北見市総合福祉会館	20 名 20 名 20 名
サッカー	令和 4 年 10 月 8 日	夕張市ｻﾝｸﾞﾘﾝｽﾎﾟｰﾂｳﾞｨﾚｯｼﾞ	38 名
ボウリング	令和 4 年 10 月 9 日	網走ヤングボウル	10 名
ボウリング	令和 4 年 12 月 4 日	帯広スズランボウル	16 名
ボウリング	令和 4 年 12 月 10 日	苫小牧中央ボウル	28 名
ボッチャ・ゲーリング	令和 5 年 1 月 14 日	登別市総合福祉センター	23 名
		合 計	273 名

（2）会報紙の発行

当協会の事業内容や活動状況などの情報発信を行うことを目的として、会報紙「飛躍」を隔月で年６回発行した。発行部数は５００部で、当協会の賛助会員や協力団体が定期購読しており、日本郵便の承認を受けた第三種郵便物として、割安な送料で購読者に送り届けている。

本年度はコロナの感染状況を見極めながら、当協会の各種事業を再開したこともあり、一面を飾るトップ記事は、大会事業の紹介など明るい話題が多く、ポジティブなメッセージを読者に届けた。また、賛助会員の継続会員及び新規加入会員の芳名を毎号掲載し、心からの謝意を表した。

(3) ホームページの運用

当協会の活動内容や最新の障がい者スポーツ情報をリアルタイムで発信することを目的として、ホームページを運用した。各種事業の再開により、事業告知と事業報告に関する記事のアップ量が増えたが、他団体のイベント紹介や話題記事も多数掲載し、ユーザーの多様なニーズに応えた。

ホームページは、情報を貯めておく機能を持ち、検索性が高く、過去の情報にもアクセスしやすいツールであり、本年度もユーザーの信頼に応えるため、価値ある情報の提供に努め、最新情報のサイトでは臨場感溢れる写真を多用するなど、スポーツ参加に向けた気運の醸成を図った。

3　団体助成事業

(1) 障がい児者スポーツ団体助成

道内を活動拠点とする「障がい児者スポーツの振興事業を行う団体・グループ」への支援を通して、本道における障がい児者のスポーツの裾野の拡大を図るとともに、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者の社会参加の促進に寄与することを目的として実施した。

北洋銀行の助成金による本事業に、今年度から新たに道の補助金による団体助成事業の１００万円が加わり、総額１９０万円を各団体に助成した。北洋銀行と道補助金の両方の事業の助成先となった団体が２ケースあったので、最終的に助成先団体は１７の団体となった。

北洋銀行の団体助成事業は、コロナ禍ということもあり、応募総数は１１団体と例年に比べ低調であったが、５月の審査会において９団体を選定し、それぞれの団体に１０万円の助成額を交付した。授与式は感染対策として開催を見送り、助成先団体の代表者に助成決定通知書を別途送付した。

道補助金による団体助成事業は、令和４年３月に北海道スポーツ推進条例が制定されたことを契機に事業化されたものであり、諸般の事情により秋に募集を開始することになったが、団体助成に対するニーズが高いこともあり、年明け早々には助成の団体枠が全て埋まる結果となった。

■助成先団体（助成額：各１０万円）

No.	北洋銀行助成金	北海道補助金
1	北海道Brave Fighters（札幌市）	一般社団法人札幌市障がい者スポーツ指導者協議会(札幌市)
2	とうべつチャレンジドクラブ（当別町）	あいべつ校OBチーム（東川町）
3	北見視力障害者福祉協会（北見市）	とうべつチャレンジドクラブ（当別町）
4	シーガル・サッカークラブF.I.Dドリーム（札幌市）	パラ・スポinえべつ実行委員会（江別市）
5	一般社団法人わくわく総合型クラブ（北広島市）	２０３０育成プロジェクト（札幌市）
6	あいべつ校OBチーム（東川町）	北海道身障者スキー連盟（札幌市）
7	神威（旭川市）	北海道美深高等養護学校あいべつ校（愛別町）
8	札幌チェアカーリングクラブ（札幌市）	北海道FIDバスケットボール連盟（札幌市）
9	北海道ゴールボールmina＊RICCA（札幌市）	特定非営利活動法人日本障害者・高齢者生活支援機構(函館市)
10		札幌デフ・カーリングクラブ（札幌市）

Ⅲ　管理部門

1　会務状況

（1）監事監査

実施日	実施場所	監査内容
令和 4 年 4 月 22 日	かでる 2･7　事務所	・令和 3 年度事業報告及び決算 ・理事の職務の執行

（2）理事会

開催日	開催場所	主な議案
令和 4 年 5 月 31 日	かでる 2･7　会議室	○第 1 回理事会 ・令和 3 年度事業報告の件 ・令和 3 年度決算書類の件 ・団体助成事業に係る助成先団体の選定の件 ・令和 4 年度定時評議員会の招集の件
令和 5 年 3 月 16 日	かでる 2･7　会議室	○第 2 回理事会 ・令和 4 年度収支補正予算書の件 ・令和 5 年度事業計画書及び収支予算書等の件 ・事務局長任用の件

（3）評議員会

開催日	開催場所	主な議案
令和 4 年 6 月 13 日	かでる 2･7　会議室	○定時評議員会 ・令和 3 年度決算書類の件 ・評議員補欠選任の件